

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	高知県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

校名名	物部村立大柵小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	20	11	18	17	15	13	1	95	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりを大切に、みずから進んで学ぶ子をめざして
 —— 豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成 ——

2 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

実施学年……全学年

実施教科……算数科を中心に全教科

選択理由

観点別到達度学力検査(CRT)の結果、本校の実態として、特に算数科についての「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」について課題があることがわかった。児童を見つめ直してみても、算数科について内容は理解しているにもかかわらず嫌いだと思っていたり、考えるのが面倒だと考える児童が多かった。そこでこの算数科に焦点を当て、考えることの楽しさを感じて積極的に問題解決に取り組むことができる、生きて働く学力を身につけた児童を育成していくことをめざして授業を改善していこうと考えた。また、「確かな学力」を育成していくためには教員の意識改革も含めて地域一丸になった指導の充実が必要であることから、指導体制も見直していこうと考えた。

(2)年次ごとの計画

<平成15年度>

テーマ

一人ひとりを大切にしたい楽しい授業作りの研究実践

研究の見通し

生きる力の元になる基礎的・基本的な内容の確実な定着や自ら学び自ら考える力について中心的に考え、「確かな学力」を身に付けた児童の育成をめざす。具体的には、主に算数科において T.T.指導を行うなどして、児童一人ひとりの理解に応じたきめ細かな指導の在り方について考えたり、指導体制の工夫・改善を図っていこうと考える。また、一部教科担任制を導入して、教師の専門性を生かして指導の充実を図りたい。

研究の内容・方法

理解の程度や習熟の程度に応じた指導

4～6学年の算数科に加配教員が入り、T.T.による指導を行うとともに、個に応じた指導方法について研究実践を行った。また、学力実態調査の結果、課題があった「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」について中心的に考え、指導の改善や指導形態の工夫を図っていかうと考えた。そして、全学年で授業研究を行い授業を分析する中で、よりよい指導の在り方について共通理解を図った。

(ア)T.T.指導について

学 習 形 態	概 要
A 1クラスに2名の教師が入り、指導にあたる。 (T.T.)	単元の序盤，中盤の概念を獲得していく場面ではこの形態で行った。机間指導によって，ヒントや助言を与えることにより，自力で解決できにくい児童も意欲的に問題解決に取り組めるようになった。また，様々な児童の意見を汲み取って集団思考につなげることができた。
B 1学級を児童の希望によって2つの課題に分けて指導する。(課題別)	主に発展問題の中で児童の興味に応じて課題を選択させ，教師がそれぞれの課題に分かれて指導にあたった。少人数になることで，友だち任せにせずに課題に意欲的に関わることができた。
C 1学級を児童の希望で2つのコース「じっくりコース」「発展コース」に分けて指導する。 (コース別)	単元終盤の，一人ひとりの理解の定着を確認する場面でこの形態を活用した。自分の理解度に応じて，安心して問題に取り組むことができるので，存分に力を発揮する姿も見られた。

(イ)指導の改善

課題であった「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の観点を中心に考えて授業の改善に取り組んできた。その中で、次の点について共通理解をして授業研究を行った。

・問題解決的な指導過程

児童が主体的に学習を進めていけるように問題解決学習を中心に取り組み、自力解決、集団思考の中で、お互いの考えを認め合いながら意欲的に取り組んでいけるように指導過程を工夫していく。

・算数的活動の重視

児童自身による作業や体験などの主体的な活動を通して、数量や図形についての意味を理解し、考える力を高め、それらを活用していけるようにすることを重視する。その中で、算数の学習を児童の身近で楽しいものにし、役立つもの、自分たちで作ることのできるもの、充実感・満足感を味わえるもの、美しさなどに感動したりできるものにした。

・学習課題の工夫

身近な素材を生かした学習課題の設定と単元構成の工夫を行い、児童の実態も考え合わせながら、課題を解決することが児童自身にとって必要感のあるものにしていく。

(ウ)指導形態の工夫

裁量の時間を週1時間活用して、「とちっ子タイム」を設定し、その中で直接的に「関心・意欲・態度」や「数学的な考え方」に焦点を当てた活動を行った。そして児童が知的好奇心を持って問題に取り組めるような内容や、具体的な操作活動を多く取り入れた題材を取り上げ、考えることの楽しさを感じさせるとともに、算数科についての興味・関心を高めていきたいと考えた。具体的には、児童が楽しんで取り組めるような、ゲーム的、パズル的な算数的内容をトピック的に行ったり、指導単元で不足しがちな操作的な活動をじっくり行うことにより、算数科についての興味・関心を高めるとともに、数量や図形についての素地を養うことをめざした。また、集団の中でお互いの解決方法を発表し合う中で、論理的な考え方やユニークな考え方など、さまざまな考え方に接することにより、それぞれの考え方のよさがわかり、自分の考えに生かしていこうとする態度を育てようと考えた。

教師個々の得意分野を生かした教科担任制の導入

教員の専門性や得意な教科等を考慮して、意識的に交換授業等を行い、他学年の教科を担当するようにした。このように全教職員が他学年に入り合うことにより、担当学年のみならず、全教職員で全児童を育てていこうとする意識を持って指導にあたった。

学力の基礎としての体験や地域社会での直接体験を取り入れた授業展開

地域の人材を積極的に活用して、体験を通して地域を理解し、地域を愛することができるように考え、取り組みを進めた。

<平成16年度>

テーマ

一人ひとりを大切にしたい楽しい授業作りの研究実践

研究の見通し

本年度に引き続き来年度も算数科を中心にして、基礎的・基本的な内容の確実な定着や自ら学び自ら考える力について考えていく。そして、T.T.による指導をより一層充実させるとともに、「とちっ子タイム」の計画的、効果的な運営を組織付けていこうと思う。また、個人カルテを生かして児童一人ひとりに合ったきめ細かな指導の在り方について考えていきたい。

研究の内容・方法

理解の程度や習熟の程度に応じた指導

T.T.による指導を1～3学年にも広げ、個に応じたよりきめ細やかな指導を考えていく。そして、授業研究を続けていくことにより、授業改善につとめる。

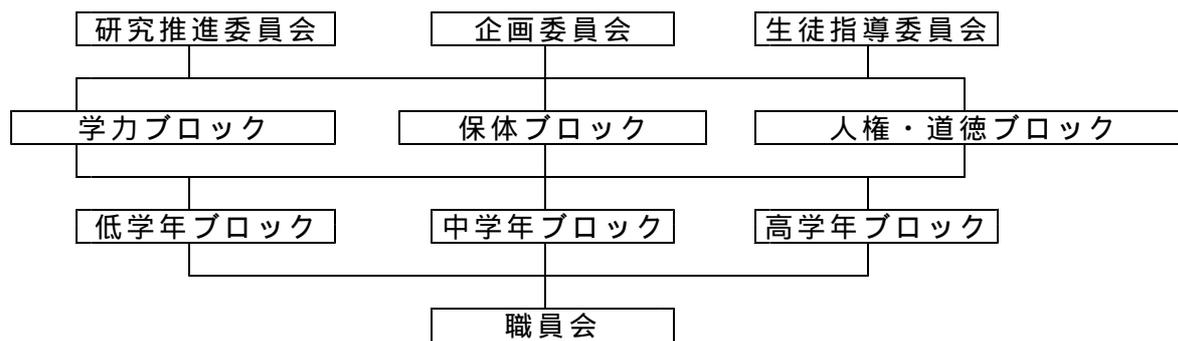
教師個々の得意分野を生かした教科担任制の導入

教員の学級間交流をさらに進めて、多面的に児童を見つめるとともに、全教職員で全児童を育てていく。

学力の基礎としての体験や地域社会での直接体験を取り入れた授業展開

計画的に地域の人材を活用して、児童が地域を知るとともに、地域の一員として責任を果たし、守り育てていけるように、地域の自然や産業を生かした体験活動を重視していく。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 授業改善について

- ・ 授業研究を続けることにより、各学年の系統や単元の目標等について深く掘り下げて考えることができ、今後の指導を行っていくうえでの基本的な考え方を考え直すきっかけになった。
- ・ ふり返しカードやワークシートなどの児童の感想により児童の考えを把握することができ、今後の指導に生かすことができた。
- ・ 低学年、高学年の2回の全校研での研究で、指導の在り方について共通理解がはかれ、それを受けて、ブロック研での実践研究につなげていくことができ、各ブロックの授業研も含めて、よりよい授業を考えていくことができた。

(2) T.T.による個に応じた指導方法の研究実践

- ・ より細やかな指導を行うことができ、常に複数教員で児童に働きかけることにより、集中して授業に取り組むことができた。理解が遅い児童や指示を理解できていない児童に対しても、個別に指導して理解の手助けができた。
- ・ 複数の教員で指導することにより具体物を使ったり、活動を重視した指導が行えるようになった。
- ・ 課題選択の授業を行うことにより、児童の興味や能力に合った活動を組織することができ、理解も深まった。
- ・ T1とT2が入れ替わることによって、いろいろな角度から児童を見ることができ、児童の考えやつまづき等を注意深く観察することにより、児童理解へとつながった。

(3) 基礎・基本の定着のための週時程の工夫（とちっ子タイムの設定）

- ・ 算数の学習と関連させて、算数の時間にあまりできなかった体験的な活動等、児童が主体的に取り組むやすい教材を多く設定したので、集中して意欲的に取り組んでいたと思う。うまくできないところがあっても、頑張ることができることがふえてきたのではないと思われる。
- ・ 児童は、「とちっ子タイム」を授業とは違った捉えかたをして、楽しんで取り組んでいた。九九等の習熟問題においても、カルタとりやビンゴゲーム等、ゆとりをもってやれたので大変よかった。
- ・ 算数の学習の中だけではなかなか時間がとれない体験的な内容について、じっくり取り組むことができたのでよかった。
- ・ 友だちと同じ考えではなく、友だちの考えつかないような方法を考えようとする児童が増えてきた。そして、難しい問題に対しても、最後まであきらめず考えようとする場面も多く見られた。

- ・とちっ子タイムを毎回楽しみにしており，意欲的に取り組んでいる。楽しく考える経験を積み重ねることで，意欲化につながり，考える力が身に付いてくるのではないかと思われる。しかしそれが算数の関心・意欲・態度へと直接結びついていくかどうかということについては，今後分析が必要である。

2. 今後の課題

- ・T.T.による指導を4～6学年だけでなく1～3学年でも実施したり，他教科にも拡大していったりするための教員配置や指導方法の研究。
- ・理解の十分でない児童のための補充的な指導の在り方，十分理解できている児童のための発展的な学習指導について，考えていく必要がある。
- ・「とちっ子タイム」について，1年間を見通した指導計画の作成と児童一人ひとりの評価方法の研究。
- ・「とちっ子タイム」で生まれてきた児童の問題解決に対する意欲をいかに継続させていくかということとともに，この意欲を算数科の単元指導へとつなげていく。
- ・「関心・意欲・態度」や「数学的な考え方」がどのくらい身に付いてきたかということについての分析方法を探る。
- ・個人カルテの効果的な記入と活用についての研究と実践。

学力等把握のための学校としての取組

観点別到達度学力検査(CRT)を実施し，その分析から児童の学力の状況を把握した。そして，分析結果や形成的評価，児童の自己評価等をもとにして，個人カルテを作成し，個に応じた指導の在り方についての研究を実践した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

年度末に研究集録を作成し公表する。また，本校のホームページに研究の概要を公開する。

【新規校・継続校】	✓ 1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	✓ 7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	✓ T.Tによる指導		
	✓ 一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	✓ 算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		✓ 有	無	